

< あなたの治療について >






血内 - VMP（皮下注）（1-4 サイクル）





今回の治療は、VMP という治療法で、ベルケイド（BOR）という注射薬とアルケラン（L-PAM）とプレドニゾン（PSL）という内服薬を併用して行います。ベルケイド、アルケランは、共に腫瘍の増殖を抑えるお薬です。プレドニゾンは副腎皮質ステロイドですが抗腫瘍効果があり、また、前記の薬と併用して治療を手助けする大事な役目をはたしています。3つの薬を組み合わせることで、より効果を高めることができます。

◎ 治療全体の流れ

今回の化学療法は6週間が1コースとなっています。各コースの1、4、8、11、22、25、29、32日目にベルケイドの皮下注を行います。1～4日目にアルケランとプレドニゾンを服用します。この治療を6週間（42日間）ごとに4回繰り返します。副作用が強く出たり、体調がすぐれない場合は回復するまで、治療を延期したり、お薬の量を減らしたりすることがあります。

◎ 1コース分の治療スケジュール

	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1日目	2~3 日目	4 日目	5~7 日目	8 日目	9~10 日目	11 日目	12~21日目
①	ベルケイド (抗がん剤)	皮下注		お休み		お休み		お休み		お休み
②	アルケラン錠 (抗がん剤)	内服				お休み				
③	プレドニゾン錠 (ステロイド)	内服								

	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	22日目	23~24 日目	25 日目	26~28 日目	29 日目	30~31 日目	32 日目	33~42日目
①	ベルケイド (抗がん剤)	皮下注		お休み		お休み		お休み		お休み
②	アルケラン錠 (抗がん剤)	内服	お休み							
③	プレドニゾン錠 (ステロイド)	内服								

★注射部位が痛い、赤くなってはれる、水ぶくれができる、ただれるなどの症状に気づいたときは、すぐに申し出てください。

◎起こりやすい副作用について（頻度 20%以上）

ベルケイド、アルケランによる

- 末梢性感覚ニューロパチー
- 神経痛
- 血小板減少
- 白血球減少
- 好中球減少

◎特徴的な副作用について

ベルケイドにおける

●肺障害

「息切れがする、息苦しくなる；から咳が出る、発熱」などの症状

●心障害

「息切れがする、咳き込む、急に胸が痛む、脈が乱れる、めまいがする」などの症状

「階段や坂道をすこしのぼっただけで息切れがする、疲れやすい；足がむくむ、横になると息苦しく座っている

方が楽である、夜間にせき込む」などの症状

●感覚障害

末梢性ニューロパチー「足又は手のしびれ、疼痛又は灼熱感」などの症状

自律神経ニューロパチー「起立性低血圧、イレウスを伴う重度の便秘」などの症状

●低血圧

●疲労、浮動性めまい、失神、起立性低血圧、霧視など

* 自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事しないよう注意すること。

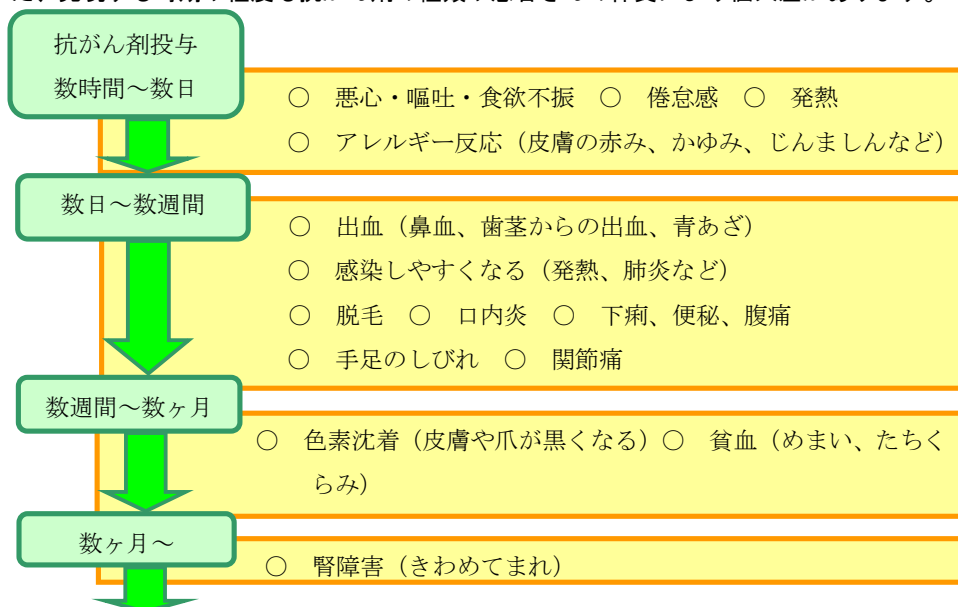
* 上記症状が現れたときは、必ず医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。

◎副作用の発現時期の目安

* この図は、今回用いられている抗癌剤による副作用だけでなく、他の抗癌剤によって起こる副作用も含まれています。

これらの副作用がすべてあらわれるわけではありません。

また、発現する時期や程度も抗がん剤の種類や患者さんの体質により個人差があります。



◎副作用の対策について

★吐き気・嘔吐，下痢と便秘，口内炎，感染症，出血，貧血，脱毛などの副作用の対策について知りたい方は、資料をお渡しすることができますのでお申し出下さい。

◎薬品毎の副作用について（添付文書における重大な副作用を製薬会社作成「薬のしおり」などから抜粋）

まれな副作用ですが、このような症状が現れた際には医師・薬剤師・看護師へご相談下さい。

【ベルケイド】

- 〈肺障害〉 から咳、息切れ、胸が苦しい、発熱
- 〈心障害〉 動悸・息切れ、胸が痛い、足のむくみ
- 〈末梢性ニューロパシー〉 手足のしびれや痛み、手足の感覚が鈍くなる
- 〈麻痺性イレウス〉 おなかがはる・著しい便秘、腹痛、吐き気
- 〈好中球減少症や血小板減少症などの骨髄抑制〉 発熱、悪寒、咳が出る、めまい、体がだるい。疲れやすい、息切れ、喉の痛み、出血しやすい、血が止まりにくい
- 〈低血圧〉 立ちくらみ、めまい、体がだるい
- 〈腫瘍崩壊症候群〉 尿が少なくなる、血尿、意識がうすれる、けいれん
- 〈発熱〉 かぜの症状がない 38℃前後の発熱

【アルケラン錠】

- 〈白血球減少〉のどが痛い、発熱、頭痛
- 〈血小板減少〉鼻血、歯ぐきの出血、月経出血の増加
- 〈貧血〉階段や坂を上るときに心臓がどきどきする、息切れ、頭痛
- 〈ショック〉顔面がまっさおになる、冷や汗が出る、立ちくらみがする。
- 〈アナフィラキシー様症状〉呼吸困難、蕁麻疹、全身のかゆみを伴った発赤

◎ 上記のほかにも副作用が現れることがあります。

他にもからだの異常を感じたら、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。